

地域畜産振興部門

北海道野付郡別海町 有限会社別海町酪農研修牧場 家族と大草原で牛飼いをしませんか

～深刻化する担い手不足対策のための
新規就農者支援システム～



別海町酪農研修牧場研修生終了式・入所式

(有)別海町酪農研修牧場は、別海町の基幹産業である酪農を維持・発展させるために、根室地域外から新規就農希望者を募って育成する機関である。新規就農者の支援体制のシステム化により、平成9年以降47組(うち2組は根室管外)の新規就農者が就農している。町と農協によって設立された研修牧場だが、「経営」実践研修を行うとともに、技術・経営両面から座学講義を行い、生活面でもサポートしているのが大きな特徴である。

同研修牧場の設立にあたって、新規就農者の確保のみという数合わせ的な対応ではなく、町がこれから目指す酪農、つまり、放牧・草地酪農等の環境循環型農業の推進、生乳加工等の高付加価値型地場産業の育成等、酪農を主体とした戦略が今後の町の振興方向と見据えており、本事例は、新規就農者育成に対して極めて戦略的に対応していると評価できる。

同研修牧場の特徴の第1にあげられるのは、研修生の受け入れ体制。研修生の人選は、酪農経験については問わず、やる気があれば受け入れる。とりわけ夫婦の場合は「妻のやる気」を重視。研修牧場の臨時職員として採用しており、1人当たり13万円の給与と月額2,500円で貸与される住宅に居住できるなど研修期間中の生活を安定させることを重要視する。これらの配慮により研修生は研修に専念でき、貯金も可能という。

第2の特徴は、研修。牧場長と経験豊かな指導員3人があたり、中規模酪農経営に対応したタイストール方式と、大規模酪農に対応したフリーストール方式の、2つのタイプの牛舎における実践研修、すなわち乳牛管理、繁殖管理、夜間確認から草地管理および収穫作業、機械保守など基本技術の徹底を旨としてすべての作業

を経験させる。さらに、実践研修を補完するために、試験場、普及センター、家畜保健衛生所、NOSAI、JA、税理士等の講師による座学を設けている。これらの講師陣とは、研修生の就農後の支援体制を構築する目的も含まれている。

研修は原則3年間だが、研修生の経験・習熟度に合わせて最低1年の牧場研修を原則として、研修生指導協議会(10戸)に所属する酪農家での1年間程度の研修や半年程度の酪農ヘルパーの体験などを組み合わせた柔軟な研修を実践している。

第3は、研修終了後。公社営農場リース事業によって施設、牛、機械を借り入れて就農し、5年後に買い取って独立するシステムとなっている。牧場長と当該JAで協議して受け入れ農場を探す、基本的に空き牧場が出るとすぐ就農させるよう仕向けている。就農時には町が300万円の助成金を交付する。

研修牧場としては、就農させるまでが役割だが、JAが就農後5年程度経営指導の担当者を張り付け、指導農業士またはJA役員の世話役もフォローアップしている。また、草作りに懸念がある研修生については、TMRセンターの構成員になることを前提に就農させ(2010年度)、さらに、JAの指導によってコントラクターの利用を勧めるなど、能力や労働力、資本装備にあわせた営農形態をも指導している。

第4に、研修牧場の生乳はほぼ100%(株)べつかい乳業興社に出荷されること。牛乳は学校給食や病院等、地元飲食店など地元はもとより全国にも販売されている。従って、研修牧場とべつかい乳業興社が一体となって地元の牛乳乳製品のメッカとして地域住民に認識されている点は、新規就農者を育成する牧場としては、極めて優れたシステムである。

活動のようす



▲研修牧場全体



▲子牛管理



▲つなぎ牛舎における搾乳作業の研修



▲牧草作業



▲パーラー搾乳



▲座学研修